

ローマ時代の「ファームハウス」

テルの最頂部には複合建造物の崩れた石組み遺構が露出していて、平面プランはローマ時代初期に典型的な「ファーム・ハウス」に類似している。試掘調査を行ったところ、南北方向の幅約1mの石壁の西側で石敷きの床面（中庭）が認められ、階段の一部が残っていた。東側では、部屋を区切る立石の柱列が出土した。屋内からはローマングラスや初期ローマ時代の土器のほか、紀元後1世紀の硬貨が発見された。また、赤・黄・緑といった色彩豊かなフレスコの断片が多数発見され、建物の壁がフレスコ画で装飾されていたことも明らかとなった。大きな邸宅あるいはユダヤ人の宗教的な施設であるシナゴークなどの公共建造物だったと考えられ、イエス活動時代のガリラヤ地方の文化史を知る上で極めて重要な発見となった。このほか、テル頂部の調査区全体（ローマ時代の居住区域）では、ユダヤ教の祭司層が穢れを避けるために使用したと言われる石灰石製の容器の破片も発見されていて、ローマ時代に小規模な集団が入植したことを示唆している。それがユダヤ人の共同体であったのかどうかについては今後のさらなる検討が必要である（桑原）。



フレスコ彩色壁画断片



石製容器断片



アクロポリスに営まれたローマ時代のファームハウスの一部（G地区）